

## ◀ 巻頭言 ▶

# 機関室の多様性が拓く未来 - 新燃料時代と現場力 -

理事 橋口 靖 生

はじめに、2月28日からのイランによる攻撃の影響により、現在もペルシャ湾内での待機や足止めを余儀なくされている会員の皆様、そのご家族の皆様、心よりお見舞いと労いの言葉を申し上げます。予測困難かつ極度の緊張感が漂う情勢下で、多大なストレスを抱えながらも本船の安全維持に日夜尽力されている皆様の強い責任感に、深く敬意を表します。皆様の無事と、事態の一日も早い収束を切に祈念しております。(巻頭言執筆は4月1日)

さて、我々を取り巻く海運業界は今、脱炭素社会の実現に向けた歴史的な転換点に立っています。それは同時に、機関室における「多様性」の急激な進展でもあります。多様性(ダイバーシティ)と聞くと、国籍や性別など人材の視点を思い浮かべがちですが、我々マリンエンジニアにとっては「機関・設備の多様化」もまた、直面する大きなテーマです。LNGに始まり、メタノール、アンモニア、さらには水素といった次世代代替燃料、そして新燃料を使用する二元・三元燃料機関など、扱うエネルギーとプラントの複雑さはかつてないほど多様化しており、我々はまさに「環境高難易度船」と呼ぶべき未知の領域へと足を踏み入れています。

毒性や極低温といった新たなリスクを伴うこれら多様なプラントを安全かつ効率的に運用するためには、もはや過去の単一的な経験則やマニュアルの踏襲だけでは太刀打ちできません。そこで真価を発揮するのが、もう一つの多

様性である「人材の多様化」です。現代の機関室は、多国籍乗組員との混乗はもちろんのこと、女性海技者の活躍や、幅広い年齢層、異なるバックグラウンドを持つ技術者が集う場となっています。



高度化・複雑化するプラントのトラブルや、今回のような予期せぬ外部ストレスに直面した際、単一の価値観だけでは見落とししてしまうリスクがあります。異なる視点や経験を持つメンバーが意見を出し合い、お互いの強みで弱みを補完し合うチームワークこそが、環境高難易度船の安全運航を支える基盤となります。重要なのは、誰もが「心理的安全性」を持ち、危険や疑問を感じた時に躊躇なく声を上げられる環境を作ることです。

設備がどれほど多様化し、自動化が進んだとしても、最後に異常の兆候を五感で察知し、最適解を導き出すのは我々人間の「現場力」に他なりません。機関設備の多様化というハード面の挑戦を、人材の多様化というソフト面の力で乗り越えていく。当協会としても、あらゆるバックグラウンドを持つ機関士が、最新の知見と技術を共有し、誇りを持って働ける架け橋としての役割を一層強化していく所存です。会員の皆様におかれましては、この変革の時代を共に乗り切るため、引き続き現場からの率直な声をお寄せいただきたく存じます。